令和５年度全国優良経営体表彰受賞者（東北農政局管内分）

農林水産大臣賞

【生産技術革新部門】

宮城県石巻市　株式会社デ・リーフデ北上（きたかみ）

代表取締役社長　鈴木（すずき）　嘉悦郎（かえつろう）　氏

経営規模：24,000 ㎡（トマト 11,000 ㎡、パプリカ 13,000 ㎡）（注）数字は令和３年当時のもの

左：鈴木代表取締役社長　　右：法人の皆さん

経営展開のポイント

・ 東日本大震災で壊滅的被害を受けた北上地区において、平成 26 年に地域農業の再生と地域雇用機会の創出を目的に設立した。オランダの施設園芸にヒントを得て、高度環境制御技術等を活用しながら、自社の経営に合わせた運営方法を探り、独自の運営体制を確立した。

・ 日照や温度などのデータに基づいた生産管理、AI による生育診断や収量予測によって、必要となる作業量を把握することで、人件費の低減を図った。また、単収改善や廃棄率減少を実現した結果、安定出荷が可能になり、大手企業との取引にもつながった。

・ スマートフォンのアプリを活用した労務管理システムを導入したことで、個々の作業量や時間を可視化し、無駄のないシフト管理が可能となり、従業員個々の資質や事情に合わせた管理を実現した。子育て世代の女性でも働きやすい労務環境となったため、離職率が低下し、従業員の熟練度向上につながった。

農林水産省経営局長賞

【経営改善部門】

福島県いわき市　農事組合法人 菊田の郷（きくたのさと） 助川農園（すけがわのうえん）

代表者：助川（すけがわ） 成光（なりみつ） 氏

経営規模： 13.6ha（トマト 6,000 ㎡、主食用米７ha、飼料用米６ha）（注）数字は令和４年当時のもの

左：代表の助川成光氏　　右：法人の皆さん

経営展開のポイント

- 平成 26 年の基盤整備を契機に地域農業の担い手として設立された農事組合法人。通称「※親バカトマト」は、サンシャイントマトと並んで、いわき地域を代表するトマトブランドとして定着している。

- 籾殻堆肥をすき込むなど土作りにこだわった養液土耕栽培に取り組み、リアルタイム栄養診断に基づく施肥や循環扇を用いた適正環境の保持により、特別栽培農産物の認証を受けている。また、環境測定機器と組み合わせた炭酸ガス施用等を行い、土耕でありながらも高単収を実現している。

- 「親バカトマト通信」の発信やホームページ、ＳＮＳにより、顔の見える農業や迅速かつ的確な情報開示を実践するとともに、ふくしま県ＧＡＰ認証を取得し、出荷前に放射性物質検査結果を開示するなど風評払拭にも尽力している。

- 就農希望者の研修農場として県の認定を受け、農業人材の育成に尽力され、また、積極的な地域の小学生等の農場見学の受け入れや都市住民との交流などにより、食農教育や農業に対する理解促進にも貢献している。

※「親バカトマト」：代表の父が中心となって作り上げた「親バカですが我が家の『自慢』のトマトです」を略したもので平成 6 年に誕生。

全国担い手育成総合支援協議会会長賞

【経営改善部門】

秋田県鹿角市　沢田（さわた）　賢市（けんいち）

経営規模：　23.7ha（水稲 15ha、飼料用米 8.3ha、施設いちご 4,000 ㎡）　（注）数字は令和４年当時のもの

沢田　賢一　氏

地域内外の生産者との技術交流

経営展開のポイント

- 鹿角市十和田において、水稲 15ha、施設いちご 4,000 ㎡、飼料用米 8.3ha の複合経営に取り組む県を代表する生産者。各部門における現状の作付面積、生産量ともに、経営改善計画の目標値を達成しており、計画的に経営の規模拡大を図っている。

- 経営の柱となる施設いちごについては、複数の作型を組み合わせることにより、当該地域では事例のなかった施設栽培による周年栽培体系を確立。地域のいちご生産者のリーダー的存在となっている。また、率先して地域農業の受け皿となり、稲作の面積拡大に取り組むとともに、スマート農業にも積極的に取組み、農作業の省力化を図っている。

- 地域内外において、いちご生産に取り組む生産者との技術交流を図るなど生産振興に寄与するとともに、若手農業者の技術習得を積極的にサポートするなど、人材育成の一翼を担っている。

- 今後、更なる経営基盤の強化のため、令和５年９月に法人を設立し、関係機関や専門家とともに営農計画の検討、就業規則の策定等に取り組んでいる。

全国担い手育成総合支援協議会会長賞

【販売革新部門】

青森県東北町　おとべ農産合同会社

代表者：乙部（おとべ） 英夫（ひでお） 氏

経営規模：30.6ha（ながいも 7.5ha、だいこん７ha、ごぼう 3.5ha、キャベツ９ha、ほか）

（注）数字は令和４年当時のもの。

左：代表の乙部英夫氏　　右：代表とご家族（役員）

経営展開のポイント

- 「やませ」による夏季冷涼な気象条件の東北町で、長年、露地野菜主体の農業経営を行い、平成 27 年に同社を設立。高い糖度と強い粘りが特徴の「ネバリスター（やまのいも）」の生産を主力とした農業経営を展開している。

- 自然薯よりも安価で量産できる「ネバリスター」の強みを生かした販売戦略により、関西圏のお好み焼き製造業者等の取引先を確保しているとともに、同取引先のニーズに対応した加工用キャベツの契約栽培も行っている。

- 農作業の軽減を図るため、ロボットトラクタや自動操舵トラクタ、自動車速制御装置・静電ノズル付きブームスプレイヤ等のスマート農業機械の導入や労務管理アプリの活用、GLOBAL　G.A.P の取得など、徹底した生産・販売管理により、さらなる作業の効率化や省力化を進めて経営の合理化に取り組んでいる。

- ネバリスター生産組合を設立して代表自らの栽培指導により、地域としての収量・品質の向上を図りながら、既存の取引先との信頼関係を築いて販路の確保に努めるなど、さらなる発展が見込まれている。